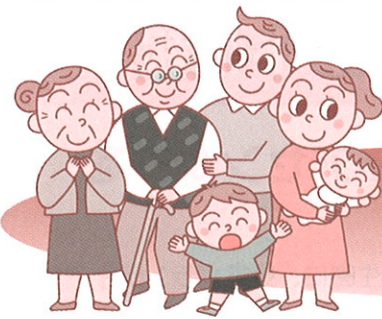




ボランティア情報

2012年9月発行 社会福祉法人横浜市戸塚区社会福祉協議会

高齢

施設でのレクリエーションの手伝い

【日 時】日～土曜日（水曜日の午後を除く）
10:00～11:30、13:00～16:00
【場 所】ニチケアセンター横浜戸塚

その他 病院内図書館の手伝い

【日 時】月～金曜日 午後の2時間程度
※曜日は応相談
【場 所】ふれあい東戸塚ホスピタル

〇やりたいことみつける!!

はじめてのボランティア活動きっかけ講座

対 象：ボランティア活動をしたい人、関心のある人。
日 時：①10月18日(木)10:30～12:00
②12月5日(水)10:30～12:00
会 場：①戸塚区福祉保健活動拠点フレンズ戸塚②とつか区民活動センター
申込み：電話で戸塚区社会福祉協議会へ。要予約・先着順

〇こころのボランティア講座

こころの病への理解を深め、地域で精神障がい者に寄り添う「こころのボランティア」として活動してみませんか？
対 象：戸塚区内在住・在勤・在学の方でこころの病について関心がある高校生以上の方/30名（先着）
日 時：①10月12日(金)14:00～16:00 ボランティアとは？こころの病のある方との関わり方
②10月17日(水)10:00～12:00 精神科医師による講演「精神障害の理解と地域生活支援」
③10月22日(月)12:00～15:00/11月7日(水)未定 当事者との交流会
※いずれかに参加
〇体験10月29日(月)～11月16日(金)区内の作業所等での体験※希望者のみ
④11月20日(火)振り返り・当事者・家族の話
会 場：①③10月22日④戸塚区福祉保健活動拠点フレンズ戸塚 ②県税事務所庁舎内「地域会議室」
③11月7日上矢部地域ケアプラザ 〇区内作業所等
参加費：無料（※サンドウィッチバイキング及び体験の際の昼食代は別途300円程度がかかります）
申込み：電話・FAXで9月12日(水)から9月28日(金)までに戸塚区社会福祉協議会「こころのボランティア講座係」まで

とつかボランティアセンターのご案内

- ボランティア相談窓口（戸塚区福祉保健活動拠点フレンズ戸塚1階）
月曜～土曜日 午前9時～午後9時
TEL: (866) 8483 FAX: (862) 5890
E-mail: volunteer@totsukashakyo.com



善意銀行寄託者一覧（平成24年4月1日～7月31日）

あら・む～ぶ戸塚、大洋建設株式会社（代表取締役社長 黒田憲一）、斉藤すみゑカラオケ教室、六国建設株式会社、神奈川土建一般労働組合 横浜戸塚支部、苫米地マサ、鹿野雄幸、渡辺晃弘、守安雄介、大岩敏子、匿名（敬省略・順不同）

障がい

知的・発達障がい者が所属しているサークル活動（横浜戸塚就労センター）での外出支援

【日 時】月1回程度の土日
【場 所】戸塚区周辺

♡ボランティア講座♡

〇秋季入門手話講座

手話について楽しく学んでみませんか？
対 象：戸塚区内在住・在勤・在学の方/30名（先着）
日 時：9月29日から12月8日までの毎週土曜日（祝日を除く）13:30～15:30
会 場：戸塚区福祉保健活動拠点フレンズ戸塚
参加費：2,200円（テキスト代含む）
共 催：戸塚区社会福祉協議会、戸塚区聴覚障害者協会
申込み：往復ハガキに①住所②氏名（ふりがな）③年齢④電話・FAX番号⑤職業をご記入のうえ、戸塚区社会福祉協議会「入門手話講座係」まで
締 切：9月21日(金)必着。応募多数の場合抽選（結果は返信ハガキにて）



2012年9月号(第55号)

発行/企画 社協・編集会議

社会福祉法人横浜市戸塚区社会福祉協議会
住 所：〒244-0003 戸塚区戸塚町 167-25
TEL: 045-866-8434
FAX: 045-862-5890
E-mail: info@totsukashakyo.com

災害時におけるボランティアとニーズをつなぐ…

災害ボランティアセンター



- 戸塚区防災計画（平成24年6月版）が策定され、「災害ボランティアセンター」についても明記されました。災害ボランティアセンターは、災害発生時に他都市等からのボランティア活動希望者と被災者からのニーズを繋ぐ場所です。戸塚区災害ボランティアセンターは災害の状況等により明治学院大学横浜校舎や戸塚区福祉保健活動拠点（フレンズ戸塚）に区本部長の指定により設置されます。

大きな災害が発生すると、多くのボランティアが他都市から駆けつけてきてくださいます。このようなボランティア活動希望者の力を最大限発揮していただくためには、被災地として、どこでどのような支援を求めているかという情報を集め、その状況に対応したボランティア活動希望者を送り出すしくみ＝災害ボランティアセンターの役割が大変重要となります。

戸塚区社会福祉協議会は戸塚区災害対策本部及びボランティア団体と連携し、災害ボランティアセンターの設置、運営をすることが戸塚区防災計画で位置付けられました。

災害発生時に備え、平常時には災害ボランティアコーディネーターの育成や災害ボランティアセンターの設置、運営訓練の実施などに取り組んでいます。これらの取組は、災害ボランティアコーディネーターとして活動することを目的として活動しているボランティア団体「とつか災害救援活動ネットワーク」とともに実施しています。

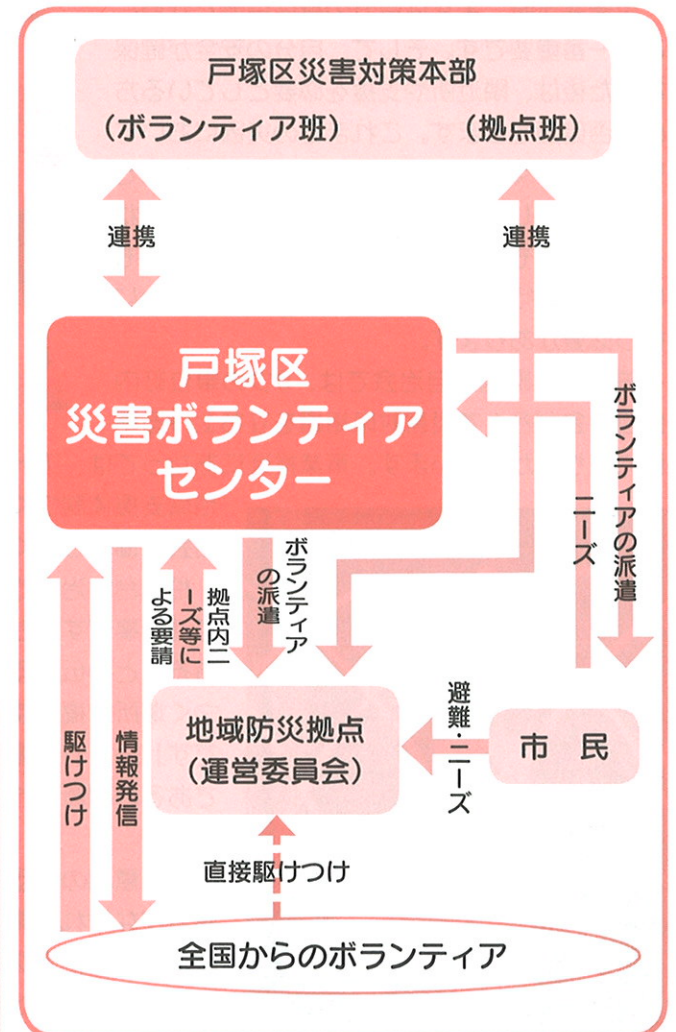
一人でも多くの方にこのしくみ＝災害ボランティアセンターを知っていただくことが、「いざ」に役立ちます。今年も災害ボランティアセンターを知り、体験する講座を予定していますので、多くの皆さまのご参加をお待ちしています。

※ 講座詳細は3面に掲載しています。

とつか災害救援活動ネットワーク（略称：とつか災害ネット）とは？

とつか災害救援活動ネットワーク（とつか災害ネット）は、大規模な災害が起きたときに設置される「災害ボランティアセンター」を運営するために、区役所・区社協と連携協力し、自主的に設立した団体です。

活動会員を随時募集しています。詳細は事務局（戸塚区社会福祉協議会）までお問い合わせください。



「私たちの地域はみんなで守る」

～災害時こそ、地域の支え合い！支援は、まず地域の力で～

これまでの大震災の例をみても、行政の活動が本格的に開始されるまでに、発災後3日程度は必要となっていて、被災した方のほとんどが、隣近所か地域の方に助けられています。その中には、自力で避難することが困難な方々もいます。

いざという時、日頃からの地域の関係づくりが大きな防災力となって、助け合いにつながります。

平常時から、災害発生時の安否確認や避難支援などの活動が行えるよう、地域ぐるみで協力し、支え合う仕組みづくりを進めていくことがとても重要です。



安心・安全な仕組みづくり

～柏尾地区の取り組み～

災害発生時、まずは自分の身は自分で守ることが一番重要です。そして、自分の安全が確保された後は、隣近所や支援を必要としている方の安否確認をします。これまでの災害においても、最も多くの人命を救ったのは地域の住民でした。しかし、安否確認のために一軒一軒尋ねるのはとても大変な作業になります。少しでも早い支援を行うため、作業を的確に、速やかに行う必要があります。

柏尾連合町内会自治会では、9つの単位町内会自治会が各々で災害対策組織を立ち上げる準備に取り組んでいます。事業推進にあたっては、アドバイザーとして、災害時要援護者



地域支援体制づくりモデル事業を実施した柏尾台自治会が協力してくれます。

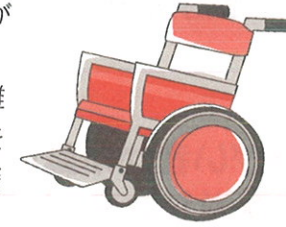
柏尾台自治会では、被災者の早期発見の手段として「無事です」というカードを作り、自分が無事であることを伝えるために、玄関先または門扉の目につく場所に掲示することになっています。この「無事です」カードが掲示されていない世帯は支援が必要であると判断され、速やかに支援が開始されるのです。

大変意義のある素晴らしい取組でも、地域住民の協力がなければ実現することはできません。柏尾連合町内会自治会の9つの単位町内会自治会が足並みを揃えるにはまだ時間がかかりますが、これからも災害に強い街づくりを進めていきたいと考えています。



災害時要援護者とは

地震などの災害発生時に、
○必要な情報を把握し、状況を判断することへの支援が必要な方
○安全な場所に避難するなどの行動をとることへの支援が必要な方



をいい、高齢者、障がい児・者、妊産婦などがあげられます。

【「災害時に備えた平常時からの要援護者支援にご理解ご協力を」より一部抜粋】

災害に備える、災害時の障がい者支援

～支援される側の思い～

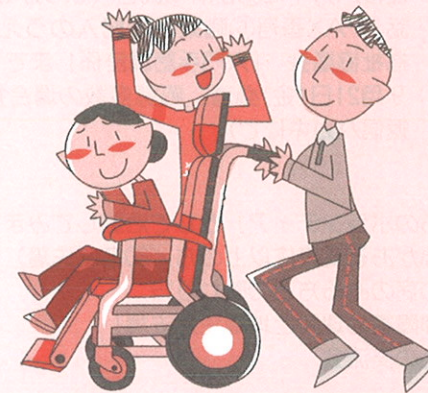
大規模災害の際に、障がい者やその家族は一般の被災者に比べて様々な面で困難があります。とくに地域防災拠点（避難所）で避難生活を送ることの難しさについては、過去の災害の際にも繰り返しくローズアップされてきました。

現在、こうした状況を改善するために、地域で様々な取組が行われています。区内の障がい福祉関係機関・団体の集まりである自立支援協議会でも、今年度あら

たに災害対策分科会を立ち上げました。災害時に備えてどのような準備をしておいたら良いのか、実際の災害の場面ではどのような配慮が必要なのかなどについて検討を進めています。通信方法や安否確認の仕組みづくりなど、検討すべき事柄は山積しています。しかし、どのような課題があるにしても、それは地域とのつながりの中で初めて解決するものであります。そして、いかに地域のみなさまと連携できる関係を築いていけるのが最大のテーマであることは間違いありません。区内の障がい福祉施設・団体では、日頃から地域のお祭りに積極的に参加し、交流をとおして住民と顔の見える関係づくりに取り組んでいます。

阪神・淡路大震災の時に、最初に温かい食べ物を作って地域に提供したのは障がい者の作業所が運営するパン屋さんだった、という街があったそうです。わたしたちも、どんな支援をお願いしたいのかだけでなく、地域にどんな貢献ができるのかということも視野に入れて、これからも検討を進めていきたいと思っています。

【戸塚障害者地域活動ホーム しもごう 副所長 甘糟 直行】



◆講座・イベント情報

災害ボランティアセンターを知ろう！

●内 容：大規模災害発生時に、災害ボランティアセンターがなぜ必要なのかを、東日本大震災における釜石市での取り組みや、簡単な疑似体験を通して学びます。

●日 時：11月9日（金）10：00～16：00（予定）

●場 所：戸塚区福祉保健活動拠点 フレンズ戸塚

●講 師：○岩手県釜石市社会福祉協議会

前事務局長 矢浦 一衛氏

○とつか災害救援活動ネットワークメンバー

他

災害ボランティアセンターを体験しよう！

●内 容：災害ボランティアセンターの設置・運営訓練を実施します。ボランティア役としてぜひご参加ください。

●日 時：2月3日（日）時間未定

※区広報1月号に掲載予定

●場 所：戸塚区福祉保健活動拠点 フレンズ戸塚

「戸塚区防災・区民マップ(2011.8月)」のデージー版を作成しました！

音声訳グループ「戸塚朗読会」が視覚障がいのある方に防災情報を届けようと「戸塚区防災・区民マップ(2011.8月)」のデージー版を作成されました！

戸塚区社会福祉協議会窓口で無料配布中です。ぜひご活用ください。

※デージー（DAISY）とは？

Digital Accessible Information Systemの略で「誰もが利用できて、しかも使いやすい情報システム」のことです。視覚障がい者への情報提供をCDにデジタル録音化したものを指します。

編集長より

今回は、想定される災害時における要援護者支援にしばって編集しました。区内でモデル事業として取組み、その後も継続して活動している地区、それを参考に新たに取り組もうとしている地区の状況もあわせて紹介しています。今後の活動の参考になれば幸いです。

編集長 天沼松次郎

（2～3面は、編集会議で企画・作成しています。）